① 毎月25日発行

山と博物館

第５０巻　第３号　２００５年３月２５日　　市立大町山岳博物館

大町山岳博物館での学習の様子（2005.1.20　大町南小学校3年3組）

これからの博物館と学校教育

増澤利定

博物館と学校教育との関わりについては「学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない」（博物館法）と記されています。博物館は展示や説明といった来館者から見れば受身的なものにならざるを得ない状況があります。来館した児童生徒に対して、展示やその説明や解説といった今までの学習活動だけでなく、自ら積極的にかかわる場としての役割など学校教育をどう支援・援助をしていくか、どの博物館も抱えている課題であろうと思います。

博物館と学校教育の「ねらい」の重なる部分での双方向の協力・連携をしていく中で、学校教育の場で博物館活動に対する理解をより深めることにより、学校教育支援・援助活動の具体的な取り組み、事業の方向が見えてくるような気がします。外に出ての体験を通した学習、子どもの学ぶ意欲や関心を引き出し感性豊かに成長してほしいという願いは博物館も学校も同じであると思います。ここから具体的な取り組みが生まれてくるのではないかと思います。

山岳博物館での学習会の企画などは、このような流れの中で「能動的」に児童生徒との関わりを深めようという試みで大きな意義があると思います。また、「年報」の「教育普及活動」でもふれている「学校の方針」と「博物館の教育普及活動」が「融合」した新しい事業の内容についても今後、より良い方向を探っていきたいものです。いま取り組まれている山岳博物館の多様で豊かな情報「科学的で豊かなデータベース」を新たな教育活動の展開に役立てたいという方針も歓迎したいと思います。

開かれた能動的な博物館を、という前に学校教育の中で博物館を活用する、必要とするような学習の工夫、博物館や博物館活動への理解を深めることが第一であると痛感しています。

（大町山岳博物館協議会委員、大町南小学校校長）

山村と教育について
―美麻村の取り組み―

飯沢壮一

美麻村では平成4年度にアメリカのメンドシーノと姉妹村締結を行い、日米双方の子供達によるホームステイなどを通して、国際交流を進めてきました。

機関誌「山と博物館」の原稿の依頼を受け、何か、かけ離れた題名かと思いましたが、事例を紹介したいと思います。

美麻小中学校は、昭和五一年に小学校、五二年に中学校を統合し、標高九五二mの高台で北アルプスの眺望が美しい環境の中で子ども達をのびのびと育てて来ました。平成一〇年から一三年度にかけ耐震補強を含む大規模改造工事に取り組みました。

学校の特徴を二つ紹介したいと思います。

平成四年度より取り組んできました、アメリカのメンドシーノとの国際交流です。これは当時、東京都在住の版画家・吉田遠志先生の仲介でメンドシーノ・アートセンター代表ウィリアム・ザッカー氏との交渉により姉妹村締結が実現しました。異文化に接し交流を深めることにより、将来を担う子ども達にその機会を与え国際感覚を高める一助とするもので、平成四年に三六名が美麻小学校からメンドシーノを初めて訪問しました。翌平成五年にはアメリカから三四名の受け入れを行いました。以後、現在も相互に訪問交流を続けています。相互訪問の始まりは、平成元年二月、メンドシーノで野球場の建設が持ち上がり平成二年七月四日の米国独立記念日に美麻村の青少年とメンドシーノ青少年による野球を実現したいとの申し出があり現在に至っております。

過去に私も二回のホームステイを受け入れした経験があります。それは英語が話せるということではなく子どもが訪問したからで、村へのお礼の気持ちで受けたものです。最初のホームステイは、結構気を遣ったつもりで、食器を揃えたり、肉を用意したり、トイレを水洗化にしたり（たまたま浄化槽の順番が廻ってきただけ）家族全員で対応しました。その後わかったことですが、寿司でも、おやきでもOKとのことでした。花火は結構喜ばれました。二回目は、アメリカの人が来るということで、友達家族等が押し寄せ、わいわいがやがやという感じで楽しい交流が出来ました。

今は、実行委員会が組織され経費削減に取り組んでおり、事業継続に向け検討会が盛んに行なわれています。

二番目は、山村留学事業です。

本年で一三年目を迎えることが出来ました。延べ一四七名の山留生を受け入れております。

事業の取り組みのきっかけとしては、山間小規模校で有り、複式学級の回避、PTAからは、保育園から中学三年生まで同じ仲間での教育効果はどうか、学力問題、課外活動、部活の編成が出来ない。こういったものを考え山村留学事業を取り入れたものであります。

山村留学発祥の地、八坂村さんのご理解をいただき（財）育てる会に委託し、美麻学園を設立して現在に至っています。

美麻学園の特徴とシステムについては、年間の活動計画に基づき四季の移り変わりの中で様々な体験教育活動を行います。親元を離れ自立への第一歩を踏み出そうとしている山村留学生を支え、様々な体験活動を指導する専門指導員が常駐して、それぞれの学生の持つ個性・特徴・興味・感心に応じた総合体験指導を行います。

山村留学生は、月の半分を山村留学センターで生活します。これは、集団寝食生活体験の場で、子ども達は、センターから学校へ通うときは片道五kmを歩き大塩でスクールバスに乗ります。この忍耐力はすばらしいもの

美麻村での山村留学事業は本年で13年目を迎えました。山村留学生は山村留学センターで共同生活しながら、四季折々さまざまな体験教育活動を行ないます。写真は自然体験教室の様子です。

写真は美麻村文化祭での山村留学生による芸能発表の様子です。

どを楽しみながら学園生活の第一歩を踏み出します。

夏は、太陽をいっぱいに浴び日本海活動、キャンプ、北アルプス登山、ヨット、カヌー等様々な自然活動に取り組みます。

秋は、自然の恵みと心の実りの季節。田畑には、春から力を合わせて育ててきた、心のこもった稲などの作物が実り、体験を通して得た心の収穫が笑顔となって現れます。

冬、留学生達は北アルプス山麓のスキー場で毎週のようにスキーを楽しみます。

また、保護者と美麻村民が触れ合う場がたくさんあり、子どものみならず今では親の山村留学だったという感想もたくさん寄せられております。この山村留学事業を取り入れて大きく変わったことは、事業費も多額ではありますが、何より美麻の子ども達に非常に良い影響を与えているということで、この事業を今後も推進していってほしいと願う声を多く聞きます。

今世の中の若者や子ども達には、「我慢する力」や「生きる力」が欠けている気がします。「キレやすい若者」等、様々な青少年問題が社会問題となっておりますが、一人一人に「心のふるさと」を持ってもらいたい、これが村や、私達の願いです。

（美麻村教育委員会教育次長）

があります。また残りの半分は、農家にホームステイします。現在受け入れ農家は四軒あり一三名の子どもを受け入れています。

近年、受け入れ農家の確保に苦慮するといった状況です。

春は、雪解けのせせらぎを聞きながら歩く通学路。生命の息吹を感じる季節。自然の中の全てのものがいっせいに動き出し山留生は秋の収穫に向けた田畑の耕作や、山菜つみな

バックナンバーのお知らせ

次の巻号の『山と博物館』バックナンバーがあります。ここで紹介した各号収録の題名・著者は主なものですので、詳細についてはお問い合せください。（大町山岳博物館）

▽第42巻4号（平成9年4月）
開催にあたって　齋藤　寿
山岳博物館「小鳥の声を聞く会」によせて　佐野昌男
喫茶「こまくさ」によせて
―四回目の開店―　山形文子
▽第42巻5号（平成9年5月）
標高三千メートルの世界を描く　金栄健介
ビジターセンターにおける
インタープリテーション　小林　毅
▽第42巻6号（平成9年6月）
遭難慰霊に思う　峯村　隆
大町高校全校登山誕生のころ　丸山　彰
松本市と大町市のサクラソウ　千葉悟志
▽第42巻7号（平成9年7月）
パノラマを描く　牧　潤一
大糸沿線スケッチポイント案内　牧　潤一
長野県のアオマツムシ　倉田　稔
▽第42巻8号（平成9年8月）
ライチョウに魅せられて　森　勝彦
最近の山登り　柳沢昭夫
エベレスト諸説紛紛　丸山善康
▽第42巻9号（平成9年9月）
「散歩しよう、森へ行こう」　勝山千帆
当世キノコ事情
―「私のキノコ談義」その後―　清沢由之
▽第42巻10号（平成9年10月）
竹村昭八写真展にあたって　山岳博物館
鹿島槍に魅せられて　竹村昭八
カモシカは新天地を求めて　千葉彬司
▽第42巻11号（平成9年11月）
我が父福岡孝行をおもふ　福岡孝純
自分だけの宝物　渡辺逸雄
▽第42巻12号（平成9年12月）
冬の森にて　峯村　隆
未踏峰に挑む―チベット自治区
キズ峰（6079m）　武田　武
▽第43巻1号（平成10年1月）
企画展の開催にあたって　奥原徳則
企画展
「鹿島槍ヶ岳・爺ヶ岳の自然と歴史」展
山岳博物館編
▽第43巻2号（平成10年2月）
春を前に　松元智子
アルプスに翔けた小伝令使（その一）
―父・三田旭夫の夢と中部山岳鳩協会―
三田啓一
▽第43巻3号（平成10年3月）
春を探しに　小山秀代
アルプスに翔けた小伝令使（その二）
―父・三田旭夫の夢と中部山岳鳩協会―
三田啓一
▽第43巻4号（平成10年4月）
増村征夫写真展　星の降る里　増村征夫
写真展『星の降る里』より抜粋　増村征夫
▽第43巻5号（平成10年5月）
雷鳥（ライチョウ）について知りたい　荒沢　進
アルプスの風にのせて　中川珠世
▽第43巻6号（平成10年6月）
日本山岳画協会展開催にあたって
日本山岳画協会
▽第43巻7号（平成10年7月）
北鎌尾根の魅力　勝野銀一
松濤明氏遺品と大町山岳博物館　扇田孝之
▽第43巻8号（平成10年8月）
水質指標と水生昆虫　佃　廣幸
ビオトープを活かした地域づくり　高山光弘
▽第43巻9号（平成10年9月）
蜂の巣採取四十年　有賀　叶
最近の北ア山麓両生・爬虫類事情　長沢　武
▽第43巻10号（平成10年10月）
開催にあたって　大町山岳博物館
言葉のスケッチ安曇野　林藪山人一美
居谷里湿原のザゼンソウに
クワゴマダラヒトリ大発生　宮田　渡
▽第43巻11号（平成10年11月）
学社連携と山岳博物館　荒井和比古
「第三回登山と高所環境に関する
国際医学会議」に参加して　柳澤昭夫
▽第43巻12号（平成10年12月）
ネイチャーゲームのこと　斉藤あずさ
クマと共生するには　米田一彦
▽第44巻1号（平成11年1月）
山小屋で働いて　小林　健
大町市の猿害とニホンザルの分布
泉山茂之
▽第44巻2号（平成11年2月）
開催にあたって　松本恵美子
「ライチョウを語る会」基調講演【その一】
『ライチョウの生活』　中村浩志
学社融合を考える①　大町山岳博物館編
▽第44巻3号（平成11年3月）
「我が心に映る山―讃歌四季―」
開催にあたって　山岳写真同人四季
▽第44巻4号（平成11年4月）
「ライチョウを語る会」基調講演【その二】
『高い山の上とはどんな所か』　中山　洌
大町山岳博物館編
学社融合を考える②　片山　寛

（敬称略）

バックナンバーの請求方法

右記にご希望の巻号がありましたら、一部一〇〇円にて販売いたします。博物館窓口でお申し込みいただくか、または巻号・部数を明記の上、現金書留か口座振替で大町山岳博物館宛代金をご送金ください（送料当方負担）。

資料の寄贈ありがとうございました

当博物館の収蔵資料充実のため、平成十六年度中あらたに次の資料を寄贈いただきました。心より厚くお礼申しあげます。

書籍1点……北安曇郡池田町　吉川　宗雄氏
ピッケル1点……大町市　柏原　幸雄氏
スズメバチの巣6点……大町市　降旗　正氏
写真1点……長野市　木下正之助氏
パンフレット1点……横浜市　太田　博人氏
書籍1点……大町市　大和　重男氏
原稿等一式……東京都日野市　三角　礼子氏
竹内鳳次郎・ヒサ夫妻等使用テント一式
……横浜市　竹内　龍三氏
スキー2点、シール1点
……愛知県瀬戸市　加藤　一満氏
書籍17点……東京都豊島区　宮島　俊名氏
（大町山岳博物館）

山と博物館　第50巻　第3号
二〇〇五年三月二十五日発行
発行　〒398-0002 長野県大町市大字大町八〇五六―一
市立大町山岳博物館
TEL　〇二六一―二二―〇二一一
FAX　〇二六一―二二―二二三三
E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:http://www2.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/
印刷　㈱奥村印刷
定価　年額一、五〇〇円（送料含む）（切手不可）
郵便振替口座番号〇〇五四〇―七―一三三九三

R100 PRINTED WITH SOY INK この「山と博物館」は再生紙を使用し、石油溶剤の代わりに大豆油を使用した大豆インキで印刷しています。